



名前	派遣先	派遣期間
阿盈娜	北京師範大学文学院 民間文学研究所	2019年10月22日 ~ 2019年11月11日
英 葡	ブリティッシュコロンビア大学 アジア学科	2020年 2月 5日 ~ 2020年 2月26日

## 中国民俗学、民間文化研究の中核 ——北京師範大学での調査



阿盈娜

(歴史民俗資料学研究科 博士後期課程)

2019年10月22日から11月11日まで、私は神奈川大学非文字資料研究センターの派遣研究員として、中国北京師範大学文学院民間文学研究所を訪問し、モンゴル族と古代東北遊牧民の食事風俗についての調査を行った。私はこれまでモンゴル族の食事文化を中心に中国青海省海西州、内モンゴル自治区四子王旗と科爾沁左翼后旗などの地域で現地調査を行ってきた。その際、日本の文献資料は入手できたが、中国の資料がまだ不十分であると感じていた。そのため、今回の調査は私の研究にとって、最も重要な機会であった。



写真1 万建中教授との撮影

北京師範大学は中国民俗学、民間文化研究の中核である。今回、指導教授である北京師範大学文学院民間文学研究所の万建中教授にご指導いただいた。10月22日北京に到着し、万教授の学生である劉珊珊さんが北京師範大学を案内してくれた。そして、23日の朝、前日の夜に韓国の研究会から帰られたばかりの万教授にお会いした。万先生からこれまでの中国の飲食文化に関する研究状況や図書館と資料室で見つかる文献資料を紹介していただき、大学の図書館や資料室に入るためのカードも借りることができた。北京師範大学の図書館と資料室では多種多様な古文書の中から古代東

北遊牧民の食事風俗とモンゴル族に関連する資料を発見した。中でも北魏の『齊民要術』、『崔氏食經』、『北方生醬法』、元朝の『農桑輯要』、『飲膳正要』、清朝の『隨園食單』と『食貨志』などの文献は、私の研究にとって貴重な資料である。

また、10月26日と27日に北京で行われた「アジア地方学と地方文化学術研究会第一回大会」に参加した。この大会には日本、モンゴル国や韓国など、他国からの参加者も含まれていたため、私は学会が始まる前と休憩時間にモンゴル語と日本語で研究者に会場の案内を行った。そして、現地及び各国の学者たちの研究を学び、特にモンゴル国と内モンゴル自治区から参加した研究者との交流もできた。

調査時間が短い中で、中国青海省海西州で現地の文献資料を集める作業と、前回聞き取り調査を行った年輩の人々から昔話や彼らの日常生活における食事活動について記録するという計画を立てていた。幸運にも調査地に行く前に、前回調査したおばあさんと連絡をとった際、彼女の親戚が10月30日に「ウルブェ」という、私の研究にとって重要な儀式を行うことがわかり、すぐに現地に行って、調査を行った。青海省海西州のモンゴル牧畜民は誕生してから3歳～5歳まで、産毛（髪）を刈らない。男の子でも髪が長いので、この時期の子供は外から性別が区別できない場合がある。「ウルブェ」という儀礼は3歳～5歳のときに髪を刈る儀式である。フランスの民俗学者アルノルト・ファン・ヘネップの観点で見れば、「猷髮」とよぶ儀式である。現地調査を終え、北京に帰って、北京師範大学の資料を探した後、国家図書館や中央民族大学の図書館でモンゴル族や東アジア民族の飲食文化に関する資料を見つけた。そして、11月9日に中央民族大学の祁進玉先生の紹介で、年一回の北京モンゴル族のナーダム祭りに参加して、各モンゴル地域から来たモンゴル族と交流できた上に、彼らが持って来た各地のモンゴル族の食事を食べて、出来る限りインタビューを行った。この経験が私の研究の視野を広げてくれ、



写真2 アジア地方学と地方文化学術研究会第一回大会の参加者らとの集合写真



写真3 第39回北京モンゴル族ナーダムでの撮影

機会があればモンゴル族の住む各地域で食文化に関する調査を行いたいという思いが前より強くなった。

今回の訪問で中国北京師範大学文学院民間文学研究所の万建中教授にはお忙しいなか時間を取って丁寧にご指導をいただいた。またチューターの劉珊珊さん、神奈川大学非文字資料研究センター事務室の成田紅音さん、荒川隆さんと川辺夏枝さんにいろいろ助けていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。最後に、派遣研究員という機会をいただき、お世話になった非文字資料研究センターの皆さまに心よりお礼申し上げます。

## 異文化の体験

英 萄

(歴史民俗資料学研究科 博士後期課程)



私は、2020年2月に非文字資料研究センターの派遣研究員としてカナダ・バンクーバーのUBCを訪問した。そのバンクーバーで、チベット仏教に関する文献資料を収集し、チベット仏教寺院の調査を行った。現在、バンクーバーにはチベット仏教ゲルク派の参智寺やカギユ派の寺院創古寺、八蚌遍徳昆治西藏仏学センターがある。参智寺と創古寺での調査は実施できた。しかし、八蚌遍徳昆治西藏仏学センターは、新型コロナウイルスの影響で閉館していたため、調査することができなかった。2020年2月24日はチベット暦の新年であり、参智寺と創古寺において新年

法会が行われた。二つの寺院の新年法会の実施する時間は異なっていた。私は時間の都合により、創古寺の新年法会に参加した。

創古寺(Thrangu Monastery)は、ブリティッシュコロombia州西南部に位置するリッチモンド市にある。北米における、最初の伝統的なチベット仏教寺院である。新年法会は創古寺の2階にある大雄宝殿で行われた。新年法会の準備は前日から行われている。前日にはカプセ(揚げ菓子)などのお祝いの料理が用意される。当日の朝8時には、バター茶やご飯などを用意する。そして、大雄宝殿の